

令和4(2022)年度地域スポーツ連携協働再構築推進プロジェクト委託事業成果報告書

【栃木県】

事業名：栃木県地域スポーツ協議会

実施日時：令和5(2023)年2月18日(土) 9:00~12:00

会場：栃木県総合文化センター第3会議室

参加者：市町行政担当者 13名

JSP0 公認指導者等 32名

宇都宮大学地域デザイン科学部教授 中村祐司氏

栃木県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会代表 清水武治氏

栃木県スポーツ推進委員協議会代表 青木一男氏

事務局 6名

計 54名

《目的》

地域スポーツを活性化していく上で、連携・協力体制の構築に必要な各種機関や団体の代表者等で構成する「地域スポーツ協議会」を開催し、本事業に参画する各市町の取組への指導・助言や協力体制の構築を図り、それぞれの地域課題解決に向けた取組が推進できるよう、積極的な支援にあたる。その際、各市町の事業計画等に即した適切な人材(学識経験者や指導者)を紹介するなど、より、質の高い事業が展開できるようにしていく。

更には、それらの取組が、当該市町のみならず、他の市町への普及・啓発が図られるよう、積極的に発信を行っていき、栃木県の地域スポーツの活性化に確実につなげるため。

《内容》

1. 連携市町による事業実施報告等

- ① 上三川町：フェンシング体験教室の開催
- ② 壬生町：ボルダリングチャレンジ教室の開催
- ③ 那須塩原市：部活動指導員等研修会の開催

2. 講話 「これからの地域スポーツについて」 宇都宮大学地域デザイン科学部 ～ 連携・協働による効果的な取組 ～ 教授 中村 祐司氏

3. グループディスカッション

テーマ「連携・協働を通じた地域スポーツの活性化」

《所見》

1. 連携市町による事業実施報告

各市町報告後、質疑時に様々な意見が出された。とりわけ市町行政担当者の意見では、「市町の垣根を越えた事業実施の可能性や魅力を感じることができた。」という意見が印象的だった。また、多くの JSP0 公認指導者から、活動の機会を求めている旨の声が挙がっていたことから、今後の地域スポーツ指導者の確保の観点からも那須塩原市が実施した指導者の養成に併せ、県内 JSP0 公認指導者への人材バンク登録を促進する必要性を感じた。

2. 講話

宇都宮大学中村教授から様々な連携・協働における取組事例をご紹介いただいた。また、部活動の地域移行については、多くの情報を提供していただきながら、連携・協働による取組が不可欠であることを示唆する内容であり、多くの参加者が関心を寄せていた。

3. グループディスカッションでは、それぞれの立場から地域スポーツに対する課題や課題解決に向けた具体的な連携・協働の在り方について、意見交換を実施。

本協議会の開催により、各地域の課題の共有や連携・協働の必要性を参加者で共有することができた。今後はこれまでの取組を更に横展開しながら、次年度の取組がさらに充実するよう、引き続き連携を図っていきたい。



【上三川町】

事業名：フェンシング体験教室

実施日時：第1回 令和4(2022)年11月23日(水) 13:00～15:00
 第2回 令和4(2022)年11月26日(土) 13:00～15:00
 第3回 令和5(2023)年2月9日(木) 13:00～15:00

会場：上三川町体育センター

参加者：第1回 小学生 53名 行政担当者 8名 県フェンシング協会 9名 計 70名
 第2回 中学生 6名 行政担当者 5名 県フェンシング協会 5名 計 16名
 第3回 小学生 6名 中学生 6名
 事務局 3名 県フェンシング協会 1名 計 16名

《目的》

自町で開催した国体競技を契機に町民のフェンシングに対する興味や関心を高めることができたが、それを一過性のものとせず、フェンシングを通じた地域活性化を更に推進しながら、国体のレガシーにつなげていくため。

《所見》

・第1回フェンシング体験教室

事業の実施計画段階から県と町の連携により検討を進めてきた。県教育委員会で行っている「とちぎ未来アスリート競技体験プログラム」のノウハウを活かし、県フェンシング協会の協力の下、好ましい連携体制による体験教室を開催することができた。



・第2回フェンシング体験教室

対象が中学生であることから学校部活動等の都合により参加者は少数だった。

しかし、各参加者がフェンシング協会関係者からの丁寧な指導を受けながら、フェンシング競技の魅力に触れ、充実した時間が過ごせたようである。

上三川町としては、今回の体験教室を契機に今後は自走しながら体験教室を継続的に実施していく考えである。年度内の実施に向けて検討を進めており、これまでの本事業の成果や課題の洗い出しを行いながら、次回開催に向けて、引き続き、県との連携を図りながら、取り組んでいきたい。



・第3回フェンシング体験教室

今後の体験教室の継続的な実施に向けて、フェンシング関連の消耗品及び備品の購入を行った。今回は、これらを用いての開催である。

また、開催に係る経費については町が負担しており、自走に向けて進み始めたところである。

今後も町単独による事業が軌道に乗るように、適宜、県や競技団体等と連携を図りながら、より充実した事業を展開していきたい。



【壬生町】

事業名：壬生町ボルダリングちゃれんじ教室

実施日時：令和5(2023)年2月26日(日) 13:00～16:00

会場：壬生町総合運動場体育館（ボルダリングルーム・ボルダリングウォール）

参加者：町内外小学生47名

事務局6名

計53名

《目的》

スポーツライミング競技（ボルダリング）を地域に定着させるため、国体の開催を契機に既存施設を有効に活用し、これまでの一般解放や講習会及び教室の充実を図る。

また、行政・学校・スポーツ関係団体が連携をとり、情報共有の強化を図りながら、スポーツを通じた地域コミュニティの維持・発展に繋げるため。

《所 見》

・ 壬生町ボルダリングチャレンジ教室

壬生町では、いちご一会とちぎ国体の開催に向けて町内全小学校にボルダリングウォールを整備する等、町全体の機運の醸成に取り組んできた。また、定期的に子ども向けのボルダリング教室を開催してきたが、コロナウイルス感染症の影響に加え、国体が終了したことから、教室事業の実施を見合わせていたところである。

今回の連携・協働事業では、町内を中心に 47 名の小学生が集まった。ボルダリングを初めて体験する子どもがほとんどだったが怖がる様子もなく、果敢に課題にチャレンジしていた。また、保護者も一緒に体験する姿が多く見られ、家族でボルダリングを満喫できたようである。

町としては、今回の連携・協働事業を契機に、再び、教室の定期開催に向けて準備を進めている。また、将来的には大会の開催も検討しており、今後も事業の充実に取り組んでいきたい。



【那須塩原市】

事業名：部活動指導員等研修会

実施日時：第1回 令和4(2022)年12月15日(木) 18:30~20:05

第2回 令和5(2023)年1月26日(土) 19:00~21:00

第3回 令和5(2023)年2月9日(木) 18:00~20:00

第4回 令和5(2023)年2月27日(月) 19:00~21:00

会場：第1回 大正堂くろいそみるひいホール(黒磯文化会館)小ホール

第2回 那須塩原市役所西那須野支所301会議室

第3回 Web会議システムによるオンライン開催

第4回 那須塩原市役所西那須野支所301会議室

参加者：第1回 小学校・スポーツ少年団関係 121名 中学校・支援員 7名

行政担当者 11名

計 139名

第2回 部活動指導員・支援員、地域指導者関係 6名

市スポーツ協会競技指導者・スポーツ少年団関係 6名

行政担当者 8名

計 20名

第3回 市スポーツ推進委員、市スポーツ協会競技指導者 3名

市スポーツ少年団関係 1名

行政担当者 3名

計 7名

第4回 部活動指導員・支援員、地域指導者関係 15名

市スポーツ協会競技指導者・スポーツ少年団関係 10名

行政担当者 8名

計 33名

《目 的》

子どもたちの持続可能なスポーツ活動の展開及び様々なスポーツに親しむ機会を提供するため、地域スポーツの活性化に取り組むこととし、地域でのスポーツクラブの設立及び競技団体やスポーツ推進委員等と連携、協力を図り、メンター・部活動指導員等、指導者の育成を進める。

《所 見》

・第1回研修会

部活動の地域移行について、令和5(2023)年度から段階的に進めていくことから、学校関係者や地域スポーツ団体関係者、保護者会関係者を対象に研修会を開催。当日は、研修会の趣旨説明と「部活動の地域移行に伴うスポーツ指導者の在り方を考える」をテーマに特定非営利活動法人スポーツコーチング・イニシアチブ後藤氏から講話を頂いた。

参加者からの意見として、「指導者不足に悩まされているところに、中学生の指導まで担うのは無理がある。」、「教員の部活動負担のイメージばかりが大きくなっているが、やりがいや児童指導力の向上、子どもとのつながり、教師だからこそ部活を通して子ども達を育てられる部分も大事にしていければと感じた。」、「スポーツ少年団は元々、小学生から高校生まで会員資格を有しているが、現状中学に進学すると卒団してしまい、小から高まで一環に指導していく必要があると感じた。」など、様々な意見をいただいた。地域スポーツ現場からの声に耳を澄ませながら、子どもたち持続可能なスポーツ活動を展開できるように取り組んでいきたい。

また、今後、地域スポーツ指導者のメンター養成対象者である25名に書籍を配布し、メンターとして必要な基本的な考え方や姿勢等を学んでいただくとともに、今後の研修会において、他参加者への積極的なアウトプットを依頼した。

備考：講話の講師を予定していた小林氏が病欠。別日での講話を依頼することとした。



・第2回研修会

今回は、部活動指導員や地域スポーツ団体関係者及び市行政担当者による、部活動の地域移行に関する研修会を開催。当初は、特定非営利活動法人スポーツコーチング・イニシアチブから講師を招聘し、講話をいただく予定だったが、第1回の参加者からの意見が多様であったことから、意見の整理や課題の洗い出しを行いながら、今後の地域移行への取組について意見交換を行った。

参加者からは、運営団体の確保や指導者の確保を課題に挙げる他、地域移行ありきではなく、やはり子どもたちがスポーツに気軽に親しめる環境づくりを第一に考える必要がある点について、共通の認識を得て、閉会した。

・第3回研修会

当初、2月10日（金）に開催予定だったが、あいにくの悪天候（降雪の影響）により、2月20日（月）に延期し、集合研修からWEB研修に実施形態を変更して実施した。

対象は市スポーツ推進委員や市スポーツ協会関係者、学校部活動を所管する学校教育課や地域クラブ活動を所管するスポーツ振興課担当者とし、特定非営利活動法人スポーツコーチング・イニシアチブから小林氏・後藤氏を講師に招いて「地域クラブ活動」を展開していく上での地域クラブ指導者の在り方について、研修を行った。

国が示すガイドラインに対する運営団体の理解促進やハラスメントの防止、指導者人材の確保及び質の向上等、成長期にある中学生年代を指導するにあたっての配慮事項等、市行政と地域団体に加え、学校との連携・協働（三者連携）が重要であることから、今後の連携体制の構築に向けて取り組んでいく必要性を確認した。



・第4回研修会

当初、予定していた事業の最終回である今回は、対象を拡大させて部活動指導員・部活動支援員・地域指導者・市スポーツ協会競技指導者・スポーツ少年団指導者に総合型地域スポーツクラブ関係者も加わった。内容としては、前回の「地域クラブ指導者の在り方」で挙げられた意見や考えを参加者で共有を行った後、特定非営利活動法人スポーツコーチング・イニシアチブから横田氏と後藤氏を講師に迎え、「ワークショップを通じて、指導員としての考え方等を学ぶ」を趣旨に実施した。

参加者からは、「勝つことだけを考える指導者であってはいけない。」「子どもたちの発達段階やニーズに応じた指導をすることが大切。」「地域クラブで指導する際の責任の所在を明確にして欲しい。」「自分の指導力の向上のため、繰り返しの研修が必要だと感じた。」「学校とうまく連携できるか不安。」など、様々な意見が寄せられた。

また、メンター養成対象者においては、これまでの研修や事前配布書籍等の内容を踏まえ、各グループ活動においてファシリテーターの役割を担いながら、望ましい指導者の在り方を共有できるよう、取り組む様子が窺えた。

今後、展開していく地域クラブ活動において必要な指導者の確保及び質の維持・向上に向け、今年度の取組の成果や課題を踏まえ、次年度の事業の充実に繋げていきたい。

備考：メンター養成対象者に対し、事前に書籍及び当日のワークショップにおける役割を提示済み。